

## 第6回震災復興会議 要旨

話題	内容
復興の基本的考え方、 復興の将来像等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口減少を考えたまちづくりをしていかなければならない。税収減などの財源の問題が心配である。</li> <li>• 復旧期は3年間だが、もっと短期間にしてもらいたい。早く元の生活に戻らないと心が折れてしまう。</li> <li>• 浜沿いの農地は使えないので、ほ場整備によって別なところで作りたいと考えている人も多いと思うが、いつになるのか分からない。</li> <li>• 浜通りに住んでいた人と丘通りに住む人の復興に対する意識の違いが見られ、町がバラバラになって、丘通りでは震災のことが忘れ去られていくような気がして、不安が大きくなっている。町がひとつになってみんなで復興していくことが大事である。</li> <li>• 復興計画には放射能問題も取り入れて欲しい。</li> <li>• JRが復旧した時には、小中学生は高校生になって町外に出ていく。現実的なものを町民に知らせてく必要がある。</li> <li>• 小中学生がこれからも山元町に住んでもらえるような施策が必要である。</li> <li>• 人口推計は現時点では妥当だと思うが、今後、必要に応じて見直しもされるべき。</li> </ul>
ランドデザイン、 重点プロジェクト等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 雇用や農地の復興は想像以上に厳しい。細かいゴミや薬品等の危険物なども混入しており本当に復旧できるのか疑念がある。</li> <li>• 重点プロジェクトは、住民の意見を取り入れる住民参加型の手法について要望する。</li> <li>• 磯地区の一部が災害危険区域に入っていないが、自宅までの道路等のライフラインは危険区域であり住環境としても相応しくないため、区域に入れるべきである。</li> <li>• 役場は今の場所でのいいのか。新山下駅周辺地区に行政サービスを集落してはどうか。</li> <li>• JR直行バス（山下～亘理）は一日も早く実現してもらいたい。</li> <li>• ボランティアを機に東京からこちら（亘理・岩沼）へ移住している人もいるので、町のいいイメージを作りたい。</li> <li>• いちこのブランド再生は復興のベースになるので、今まで以上に取り組んでほしい。</li> </ul>
復興のポイントと方向性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな住宅については、早期に場所の確定をしてほしい。</li> <li>• 農地は深刻な状況である。新たにほ場整備を起こすのか。</li> <li>• 保健・福祉の構想をしっかりとやってほしい。</li> <li>• 学校の再編については、被災小学校は統合せざるを得ないと思うが、通学の問題については十分な対応をお願いします。</li> <li>• 避難路計画の路線でカーブがきつい場所があるので、拡幅等が必要である。</li> <li>• 宮城病院周辺の具体的な整備目標を示して欲しい。</li> <li>• 第3の駅として病院近くに駅を要望することをどこかに残してほしい。</li> <li>• 保育所や教育環境を病院付近にもっていくことも検討願う。</li> <li>• 子供の教育については、独自の教育方法で水準を高めていく必要</li> </ul>

	<p>がある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 仮設住宅に入っている人の精神面のケアに配慮してほしい。</li><li>• 復興に関する人の話を聞いて進めてもらいたい。</li><li>• コミュニティ施設の整備は大変いいことだと思う。</li><li>• 自主防災組織は、行政区の横の連携が必要である。</li><li>• 対話の必要性については、町の復興の姿を見ていただくようなバスを用意して、意見を聞くことなどを提案する。</li><li>• モニュメントは中浜小学校だけでなく、各小学校でも取り組んでほしい。</li><li>• どこにでもある復興計画ではなく、山元町の独自色を出してほしい。</li></ul>
--	--